

Speed Limit Policy and Knightian Uncertainty

松山大学 蓮井康平

規範的金融政策の一つである Walsh [2003] のスピード・リミット・ポリシーは、合理的期待均衡の仮定の下でその有効性が示されている。本研究は、完全な知識 (**perfect knowledge**) の仮定を緩め、モデルの不確実性がスピードリミット・ポリシーの政策反応(ロバスト政策)と、その有効性にどのような影響を与えるのかを分析する。

分析の結果、以下の点が判明した。第 1 に、ロバスト政策では、産出ギャップが産出ギャップの過去ラグに注意深く反応し、産出ギャップの慣性が低下することが判明した。第 2 に、ロバスト政策のスピードリミット・ポリシーでは、産出ギャップの慣性の低下によって、経済変動の増大が抑えられ、厚生損失がロバスト政策のコミットメント政策の厚生損失よりも、多くの場合で小さくなることが判明した。

本結果は、想定する最も悪い状況 (**worst-case scenario**) が発生した場合、スピードリミット・ポリシーのような、産出ギャップの成長の安定を目標にする政策が極めて有効になる可能性があることを示している。